

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 8 日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23520097

研究課題名(和文)イブン・スィーナ『治癒の書』に関する比較思想史的研究(2)

研究課題名(英文)A Comparative Study of Ibn Sina's Book of Healing (Kitab al-Shifa'), (2)

研究代表者

小林 春夫 (Kobayashi, Haruo)

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：70242229

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：イスラーム世界を代表する哲学者・医学者イブン・スィーナ(Ibn Sina=Lat. Avicenna, 1037年没)の思想の全体的解明に向けて、第一に、彼の主著である『治癒の書』(Kitab al-Shifa')の形而上学部分をモッター・サドラー(1640年没)やナラーギー(1794年没)の註釈や数種の現代語訳に基づいて精読し、邦訳と註釈を作成した。第二に、イブン・スィーナの思想とギリシア哲学、シリア語圏の思想等との関係を明らかにし、またイスラーム思想史におけるその受容と発展を跡付けるべく、分担者が専門研究をおこない、その成果を発表した。

研究成果の概要(英文)：This is a study of the philosophy of Ibn Sina (Lat. Avicenna, d. 1037), one of the most important philosophers and medical scientists in the Islamic world. During the period of study, firstly we examined the metaphysical part of his magnum opus "Book of Healing (Kitab al-Shifa')", consulting the commentaries written by Mulla Sadra (d. 1640) and Maraqi (d. 1794) with several modern translations, and published a Japanese annotated translation of Book One, chapters 3-5. Secondly, we investigated the philosophical background of this work and its multiple influence on the later Islamic world as well as on the Syriac and Latin Christian worlds.

研究分野：イスラーム哲学

キーワード：イブン・スィーナ イスラーム哲学 形而上学 バルヘブラエウス シリア語 治癒の書

1. 研究開始当初の背景

近年、イスラーム地域の重要性がますます広く認識されるようになってきているが、人々の関心はともすれば同地域で起こっている紛争やテロに注がれがちである。これに対して我々は、今日的な問題も含めて、イスラーム地域を認識する上でその社会的・文化史的研究こそが最も重要であると考えてきた。また、研究代表者は哲学を中心にイスラーム思想の研究を行っているが、その本質を理解するためには、先行する諸文明からの影響や周辺世界との比較を視野に入れることが不可欠であると考えている。このような問題意識の下に、ギリシア語・シリア語・中国語圏の思想史や宗教史を専門とする研究者と共同で、イスラーム哲学の比較思想的解明を企画するに至ったのである。

なお、本研究は2007年～2010年に実施した科学研究費基盤研究(C)「イブン・スィナー『治癒の書』に関する比較思想史的研究」(課題番号19520074)を継続するものとして、その成果と問題点を考慮しつつ、企画されたものである。

2. 研究の目的

(1) イブン・スィナー(1037年没)はイスラームを代表する哲学者・医学者である。彼の重要性は、要するに、イスラーム世界にギリシアの諸学問を体系的に導入したこと、とりわけアリストテレスの思想とイスラーム的(一神教的)世界観とを融合し独自の体系を構築したことにあると言えるだろう。こうしてイブン・スィナーの思想は後のイスラーム思想全般の基盤となったばかりでなく、同時代のユダヤ教・キリスト教思想(シリア語圏・ラテン語圏)にも甚大な影響を及ぼした。本研究が主な対象とする主著『治癒の書』は論理学・自然学・数学・形而上学・倫理学を含む大著であり、形而上学を論じた部分だけでも刊本で450頁を超える。ここで論じられている「存在と本質」、「必然的存在者」と「可能的存在者」、「世界の発出」などは、後の哲学・神学における議論の骨格をなしているといっても過言ではない。そこで本研究の第一の目的は、『治癒の書』形而上学の邦訳と厳密な註釈を作成することである。(2) 以上の作業と並行して、隣接する分野の研究者が『治癒の書』に関連するそれぞれの研究を推進するとともに、その成果を持ちよって比較検討することで、『治癒の書』の成立と影響について多面的に解明することを目指す。

3. 研究の方法

(1) 『治癒の書』の読解と訳註の作成については、これまでに積み重ねてきた方法を踏襲する。すなわち、3種類の刊本(カイロ版、マルムラ版、イスファハーニー版)と、同書に付されたモッラー・サドラーやナラーギー等の古註釈と、中世ラテン語訳、仏訳(G.

Anawati)、英訳(M. Marmura)、伊訳(A. Bertolacci, O. Lizzini)等の現代語訳を参照しつつ進める。

(2) 刊本の欠陥を補うために海外の図書館等で『治癒の書』に関するアラビア語写本の調査を行い、併せて関連文献の収集、海外の研究者との情報交換を行う。

(3) 研究代表者および分担者がそれぞれの専門領域における研究を進め、『治癒の書』に対するギリシア哲学の影響、ギリシア思想の伝達におけるシリア語の重要性、イスラーム思想史における『治癒の書』の位置づけ、ユダヤ・キリスト教思想への影響などを明らかにする。

(4) 以上の成果を持ちより比較検討する研究会を開催する。また、本研究の成果を広く一般に発信する場として、公開シンポジウムなどを企画する。

(5) 若手研究者や大学院生などの研究会への参加を促し、研究者育成の場となるよう努力する。

4. 研究成果

(1) 本研究期間を通じて定例の研究会を開催した(第54回～第66回)。研究会には若手研究者や大学院生も参加し、厳密なテキスト読解と内容に関する多面的な討論を行った。その成果は、下記の〔雑誌論文〕などに現れている。

(2) 小林春夫(研究代表者)は研究期間中、フランス国立図書館(2012年6月)、ライデン大学図書館(2012年8月)、ベルリン国立図書館(2013年9月)およびフェルドウスイー大学図書館(イラン、2014年2月)において文献調査を行い、写本データや関連資料を多数収集した。

(3) 個別研究の成果として、小林春夫(研究代表者)はイブン・スィナーのイスラーム哲学史における位置づけについて、最近の研究動向を踏まえつつ明らかにした。その成果が下記の〔学会発表〕と図書である。またイブン・スィナーの自伝を取り上げて知的自己形成の視点から詳細に分析したが、その成果が〔図書〕である。

高橋英海(研究分担者)はシリア語圏の哲学・神学者バルヘブラエウスとイスラーム思想との関係について多面的に解明した。その成果は〔雑誌論文〕、〔学会発表〕、〔図書〕に公表されている。また多文化間の伝達手段としてのシリア語の重要性を具体的に明らかにしたのが、〔雑誌論文〕、〔学会発表〕などである。またシリア語を媒介としたギリシア哲学のイスラームへの伝承について論じたものが、〔図書〕である。

また小林春夫・高橋英海・仁子寿晴(研究分担者)は下記の〔その他〕に示したシンポジウム「イスラーム哲学の転換点：イブン・スィナーをめぐる比較思想の試み」を企画し、本研究の成果を一般に発信すること

を試みた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

小林春夫他3名「イブン・スィーナー著『治癒』形而上学訳註(第1巻第5章)」、早稲田大学イスラーム地域研究機構、査読無、『イスラーム地域研究ジャーナル』vol.8, 2016年、107-117頁

小林春夫他3名「イブン・スィーナー著『治癒』形而上学訳註(第1巻第4章)」、早稲田大学イスラーム地域研究機構、査読無、『イスラーム地域研究ジャーナル』vol.7, 2015年、77-86頁

高橋英海：“Syriac as the Intermediary in Scientific Graeco-Arabica: Some Historical and Philological Observations”, *Intellectual History of the Islamicate World*, vol.3, 2015, pp. 66-97.
(DOI:10.1163/2212943X-00303004)

高橋英海“Syriac as a Vehicle in the Transmission of Knowledge across Borders of Empires”, *Horizons: Seoul Journal of Humanities*, 5/1, 2014, pp.29-52.

高橋英海：“Reception of Islamic Theology among Syriac Christians in the Thirteenth Century: The Use of Fakhr al-Din al-Razi in Barhebraeus' Candelabrum of the Sanctuary”, *Intellectual History of the Islamicate World*, vol.2, 2014, pp.170-192.
(DOI: 10.1163/2212943X-00201011)

小林春夫、仁子寿晴他2名「イブン・スィーナー著『治癒』形而上学訳註(第1巻第3章)」、早稲田大学イスラーム地域研究機構、査読無、『イスラーム地域研究ジャーナル』vol.5, 2013年、103-136頁

[学会発表](計8件)

高橋英海「中東地域のキリスト教徒に与っての移住：聖書、歴史、文学そして現状から」、東京大学中東地域研究センター公開シンポジウム：移動・移民と中東、2016年1月31日、東京大学駒場キャンパス(東京都)

高橋英海：“Treatment of Water in Syriac Religious Literature”, The Third Symposium of Sultan Qaboos Chairs: Managing Water Resources for

Sustainable Development, 2014年10月2日~3日、東京大学本郷キャンパス(東京都)

小林春夫：“Ibn Sina's Contribution to Islamic Philosophy”, International Symposium: The Historical Heritage of Scientists and Thinkers of the Medieval East, Its Role and Significance for the Modern Civilization, 2014年5月15日、サマルカンド(ウズベキスタン共和国)

小林春夫「イブン・スィーナーからスワフルディーへ」、中東イスラーム世界セミナー「中東の思想と社会を読み解く」(第10回)2013年12月21日、東京大学駒場キャンパス(東京都)

高橋英海「シリア語キリスト教神学におけるカラームの受容」中東イスラーム世界セミナー「中東の思想と社会を読み解く」(第3回)2013年6月15日、東京大学駒場キャンパス(東京都)

高橋英海：“Reception of Islamic Theology among Syriac Christians in the 13th Century: Bar Shakko and Barhebraeus”, International Conference: Jewish and Christian Reception(s) of Muslim Theology, 2013年5月24日、イスタンブル(トルコ共和国)

高橋英海：“Translation and Intercultural Relationships: Observations on Translations into and from Syriac”, Asian Institute, Melbourne University, 2013年3月19日、メルボルン(オーストラリア)

高橋英海：“Barhebraeus on Psychology: An Overview of His Writings on the Soul”, XIth Symposium Syriacum, University of Malta, 2012年7月16日、ヴァレッタ(マルタ共和国)

[図書](計6件)

高橋英海他18名, *Islam and Rationality: The Impact of al-Ghazali*, vol.1, Brill 2015, 505 pp. (pp.303-325)

小林春夫他9名『中東の社会を読み解く』東京大学中東地域研究センター2014年、211頁(85-96頁)

高橋英海他7名, *Cosmic Order and Divine Power: Pseudo-Aristotle, On the Cosmos*, Tuebingen: Mohr Siebeck, 2014,

x+230 pp. (pp.153-167)

小林春夫、高橋英海他 7 名 『知の継承と展開 イスラームの東と西』(知のユーラシア 2) 明治書院 2014 年、227 頁(15-44 頁, 71-102 頁)

高橋英海他 21 名, *Letter before the Spirit: The Importance of Text Editions for the Study of the Reception of Aristotle (Aristoteles Semitico-Latinus 22)*, 2012, Brill, xxii+ 520 pp.(pp.109-130)

高橋英海他 8 名 『イスラーム哲学とキリスト教中世』第 1 巻(理論哲学) 岩波書店 2011 年、346 頁(13-43 頁)

〔その他〕

小林春夫、高橋英海、仁子寿晴、シンポジウム「イスラーム哲学の転換点：イブン・スィナーをめぐり比較思想の試み」(中東イスラーム世界セミナー) 2012 年 12 月 21 日、東京大学駒場キャンパス(東京都)

6. 研究組織

(1)研究代表者

小林 春夫 (KOBAYASHI HARUO)
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号：70242229

(2)研究分担者

高橋 英海 (TAKAHASHI HIDEMI)
東京大学・総合文化研究科・教授
研究者番号：20349228

仁子 寿晴 (NIGO TOSHIHARU)
京都大学大学院・アジアアフリカ地域研究
研究科・客員准教授
研究者番号：10376519
(平成 25 年 3 月 31 日削除)